

第2回 豊岡市公営企業審議会 議事録（要旨）

開催日時 2023年10月30日（月） 13時30分から15時00分まで
開催場所 市役所本庁舎 2階 大会議室
出席した委員 都築会長、坂本副会長、大石委員、作花委員、島崎委員、中易委員、
難波委員、西村委員、橋本委員
欠席した委員 山口委員
事務局 川端上下水道部長
水道課 谷垣課長、大谷参事兼課長補佐、西山水道経理係長
下水道課 榎本課長、青山課長補佐、山本主幹兼下水道経理係長
傍聴者 5名
司会進行 事務局、会長

1 開 会（13時30分）

2 委員紹介等

3 議事録署名委員指名

会長から委員名簿順に従い、中易委員と難波委員を指名。

4 議 事

- (1) 上下水道事業の現状と課題、上下水道事業の概要と今後の取組みについて
事務局から「上下水道事業の現状と課題」、「上下水道事業の概要と今後の取
組み」について、資料に基づき説明。

（質疑）

なし

- (2) 2022年度の決算状況と今後の収支見通しについて

事務局から「2022年度の決算状況と今後の収支見通し」について、資料に基
づき説明。

委 員：資料17ページ、貸借対照表の流動負債について、前年度との比較が5
億6,200万円程度あるが、その中の大きなものの科目を教えてほしい。

事務局：主な科目としては、未払金のほか、企業債、前受金、引当金などが含
まれており、ほとんどが未払金となっている。3月末の工期が多く、
検査は3月31日までに終えているが、そこから請求が発生してくるた
め、未払金となるものが多い。

委 員：3月31日までに業者としては駆込み工事として完成させて請求権を発

生させたいということであれば、未払金が積みあがるのも理解できる。通常の工事をしていけば、年度末に工事がまとまってくることは考えにくい。

事務局：1年を通して工事が順番に出来上がっていけばよいが、契約変更等により年度末までの工事になったり、発注時期も4月早々という訳にもいかないため、年度末に工事完了するものが多い。年度末に完了し、請求書があがってきて支払いが4月以降になってしまったものが多い。基本的に昨年度は工事100%完了後に引き渡しを受けている。

委員：水道事業の中で、漏水などによる無収率が何%か。漏水を抑えることにより、料金にも反映されると思う。水道管の事業について、25～30年経過しているが、老朽化更新の進捗状況は何%くらいか。膜ろ過するにあたり20年近く経過している。安心・安全な水道水を供給するために、膜ろ過の更新について方針決定されていないと、市民の皆さんとの熱が高まるのではないかと思う。

また、下水道における有収率は100%を目指していたものが、86%に落ちている。料金に反映してくる話なので、教えていただきたい。併せて、普及率が100%になっていないのはなぜか。

事務局：漏水の率については数字を出していない。有収率を上げることで費用を抑えることにつながるため、漏水調査をしっかりと行いながら、有収率を上げる努力をしている。老朽管について、耐用年数としては40年となっている。老朽管の更新は、現在年間で3～4km程度行っており、現状では漏水の多い箇所や水道管年数の古い箇所で、整備を行っている。管路更新について、事故が多いところなど管路のダウンサイジングも見極めながら更新を行っている。

膜ろ過について今回更新を行っている佐野浄水場は、技術改良等により15年くらい大丈夫な膜ろ過装置としている。その他の浄水場は、膜ろ過を使用しているところは少なく、水の処理状況を見ながら適切な更新を行っている。

下水道管の更新については、耐用年数が50年となっている。豊岡市では、古い下水道管が40数年経過している。考え方として、耐用年数は50年であるが、維持管理を適正にすることにより、さらに耐用年数を伸ばすよう努力している。管路点検を実施しているが、更新しなければならない管はない。有収率については、雨が多く降った場合、マンホール等から少しずつ雨水が入ってくるため、降雨量の影響を受ける。また、普及率は、処理区域内人口を行政区域内人口で割ったもので、行政区域内全てが処理区域内でないので100%になることはない。処理区域内の下水道については、ほぼ100%整備できている。

- (3) 水道料金・下水道使用料見直し検討スケジュールについて
事務局から、「水道料金・下水道使用料見直し検討スケジュール」について、
資料に基づき説明。

(質疑)

なし

5 その他

事務局から、今後の審議会の開催予定について説明。今年度中の開催は、現時点では予定はなく、急遽、審議を要する案件が生じた場合、日程調整させていただく。

6 閉会（15時00分）

坂本副会長あいさつ